

With Every Child

すべての子どもとともに

特定非営利活動法人 NPO Center for children Fukuoka

子どもNPOセンター福岡

「子どもにやさしいまちづくり」 ネットワーク推進事業

特定非営利活動法人 NPO Center for children Fukuoka

子どもNPOセンター福岡

令和元年度福岡市NPO活動推進補助金事業 事業報告資料

(特) 子どもNPOセンター福岡

特定非営利活動法人 NPO Center for children Fukuoka
子どもNPOセンター福岡

【組織概要】 子ども分野のネットワークセンター・中間支援組織

設立 2003年9月

ビジョン すべての子どもが尊重される社会

ミッション 市民の“つながり”と“協働”でめざす

「子どもにやさしいまち」の実現

※**子どもにやさしいまち**とは・・・

「子どもの権利条約」の自治体レベルでの実現を目指して、世界で展開されている国連（ユニセフ）のプロジェクト。子どもNPOセンター福岡も、これに賛同する多くの方々とともに、この活動を推進している。

現状

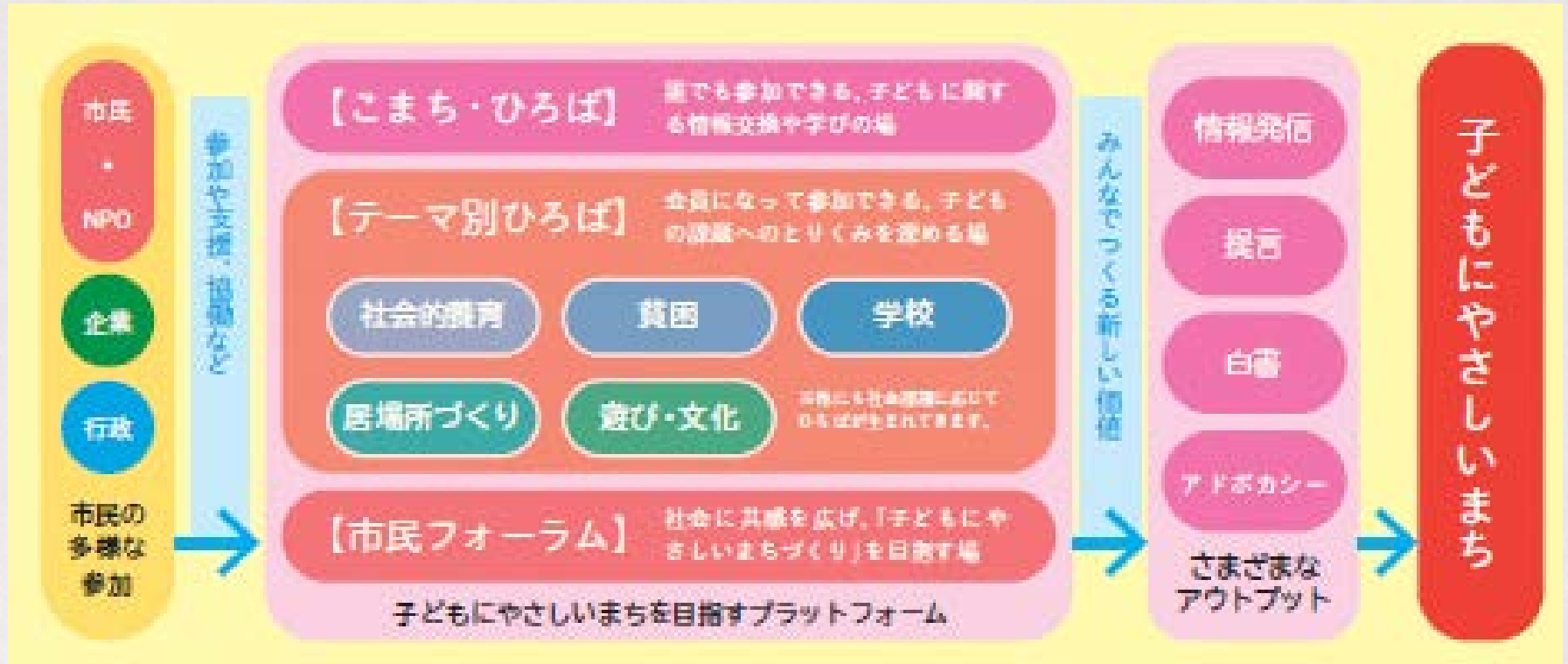
虐待、貧困、不登校、いじめなど、様々な困難に苦しむ子どもたちがいる現状に対して…



課題解決に向けて、様々な分野で活動する多くの市民・NPOとネットワークをつくってきたが、依然として厳しい状況がある

「子どもにやさしいまち」をめざすプラットフォームを構築

⇒ 発展させるために、補助金を活用



事業実施概要①

子どもに
やさしいまち

定例会「こまちひろば」の開催

【内 容】 「子どもの権利条約」を中心に学習・交流・情報交換
(子どもの権利条約第31条、不登校支援、SDGsについて など)

【実施日時】 毎月第2月曜日19:00～21:00 (期間中7回)

【対 象 者】 子ども活動に関わる市民・NPO関係者、行政関係者等、関心のある方

【実施場所】 福岡市中央市民センター

【平均参加者数】 28名



成果①

定例会「こまちひろば」の開催

- 子どもの権利について学び・交流する中で、参加者同士が課題を共有し視野を広げることができた。
- 個人や団体が主体的にかかわり、互いに研鑽しながら、自立した市民として育つ場の提供ができた。
- SDGsをテーマとした特別講演では、企業等、新しいつながりも見えた（66名参加）。



<参加者より>

- ・SDGsについて知り、ワークショップを通して、経験することができたのはもちろん、特に良かったのは、様々な年齢、立場の人と意見交換ができたこと。自分の考えを深める良い機会になった。（学生）
- ・楽しみながら、自分の立場で、どう今回の学びを活かせるのか、とてもいいヒントをもらえた。

事業実施概要②

市民フォーラム「子どもにやさしいまちづくり」の開催

【テーマ】 「子どもの権利が大切にされる社会」
～きこえていますか？子どもの声が～

【実施日時】 2019年12月1日（日）10:00～16:30

【対象者】 NPO、行政関係者、専門職、市民、学生、子どもなど

【参加者数】 186名

【実施場所】 福岡市市民福祉プラザ 601研修室ほか

【プログラム】

- ・ 基調講演「子どもの声を聴き社会に届けるために—制度から実践まで—」
ひとりの子どもを見捨てることは すべての子どもを見捨てること
講師：相澤 仁さん（大分大学）
- ・ 分科会（5グループ）
 - ①「子どもを孤立させない地域づくり」
 - ②「子どもの居場所づくり」
 - ③「子どもと学校」
 - ④「子どもの育ちと環境」
 - ⑤筑紫女学園大学 L Y K K E



成果②

市民フォーラム「子どもにやさしいまちづくり」の開催

- 当日スタッフ含め約30名の実行委員とともにつくり、子どもの権利条約、特に子どもの意見表明権「子どもアドボカシー」の理解を一挙に広げる機会となった。



<参加者より>

- ・ 世代を超えて、様々な人と話すことはとても面白かったのでこのような機会が増えたらいいなあ～と思う。
(中2)
- ・ 当事者（子ども）、関係者、市民の方々が“参加する権利”を実行してこの場が設けられている福岡市の地域のすばらしさを感じた。（基調講演講師）



成果

内容の充実

広報力アップ

【参加者数（平成30年度との比較）】

- ・ 定例会「こまちひろば」 **24名** ⇒ **28名**（平均/回）
- ・ 市民フォーラム「子どもにやさしいまちづくり」 **162名** ⇒ **186名**

- 定例会「こまちひろば」・市民フォーラム「子どもにやさしいまちづくり」を開催し、NPO・市民団体、行政関係者、里親、福祉施設職員、学校・教育関係者、学生、子どもなど幅広い分野の方々、延べ382名にご参加いただいた。
- 子どもの権利の視点から子どもの現状、課題解決に向けた最先端の取り組みについて学び、子どもの声を聴く必要性について共有することができた。

- 定例会「こまちひろば」や市民フォーラムの参加者に対して、次の行動へつながるプラットフォームを十分にいかしきれなかった。
⇒子どもの実態から見える課題解決に必要なアプローチ、まちづくりへの参画など、具体的な実践につながるきっかけを提供する。
- 子どもを含む市民が主体的に参加する場として、定例会「こまちひろば」や市民フォーラムを、より多くの方々とともにつくっていく体制が不十分だった。
⇒子どもにやさしいまちづくりを目指すネットワークのつながりを深めながら、子どもも含めて多くの方々とともにつくっていく。

今後の展望

子どもにやさしいまちの実現をめざして・・・

- 子どもの権利尊重の実態を把握・発信しながら、まちづくりに参画する人々とつながり、具体的な取り組みについて学習・交流を行う。
- 「こまちひろば」・「テーマ別ひろば」・「市民フォーラム」を軸として、子どもの権利尊重のまちづくりをめざす、プラットフォームの構築をさらにすすめる。

ネットワークが
広がる

「子どもにやさしいまち」を
めざす市民意識が醸成される

それぞれの具体的な
取り組みにつながる

市民の“つながり”と“協働”でめざす
「子どもにやさしいまち」の実現